

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 取組状況について



2016年1月

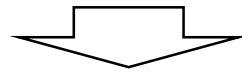
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

- アクション&レガシープラン 中間報告について
- 新たなエンブレムの選考に向けて
- 「Tokyo 2020 JAPAN HOUSE」事業について
- 今後のスケジュールについて

1. 基本的な考え方（アクション&レガシープラン）

東京2020アクション&レガシープラン2016 ～東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう。～

- ▽ 『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。
- ▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、その力で、東京2020大会をきっかけにポジティブな影響を残し、聖火リレーのように、次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。



- ▽ 『アクション&レガシープラン』は、一人でも多くの方が参画【アクション】し、大会をきっかけにした成果を未来に継承する【レガシー】ためのプラン。

Tokyo 2020 Vision

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を
3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

2. オールジャパンでの取組

- ▽ 東京都、政府、経済界、JOC・JPC等の関係団体と連携を図り、オールジャパン体制で検討し、今回、中間報告として取りまとめ。（別紙参照）
- ▽ ①「スポーツ・健康」②「街づくり・持続可能性」③「文化・教育」④「経済・テクノロジー」⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱で検討。⇒今後、「アクション&レガシープラン2016」を策定し、リオ大会前に公表予定。



3. アクション&レガシープラン2016の策定に向けた重要な視点

(1) 『参画』

- ▶ 多くの企画・イベントを全国で実施し、できるだけ多くの方々、自治体や団体に主体的に参画していただき、盛り上げを図る。
- ▶ 企画・イベント等の「認証」の仕組みをリオ大会前までに構築。

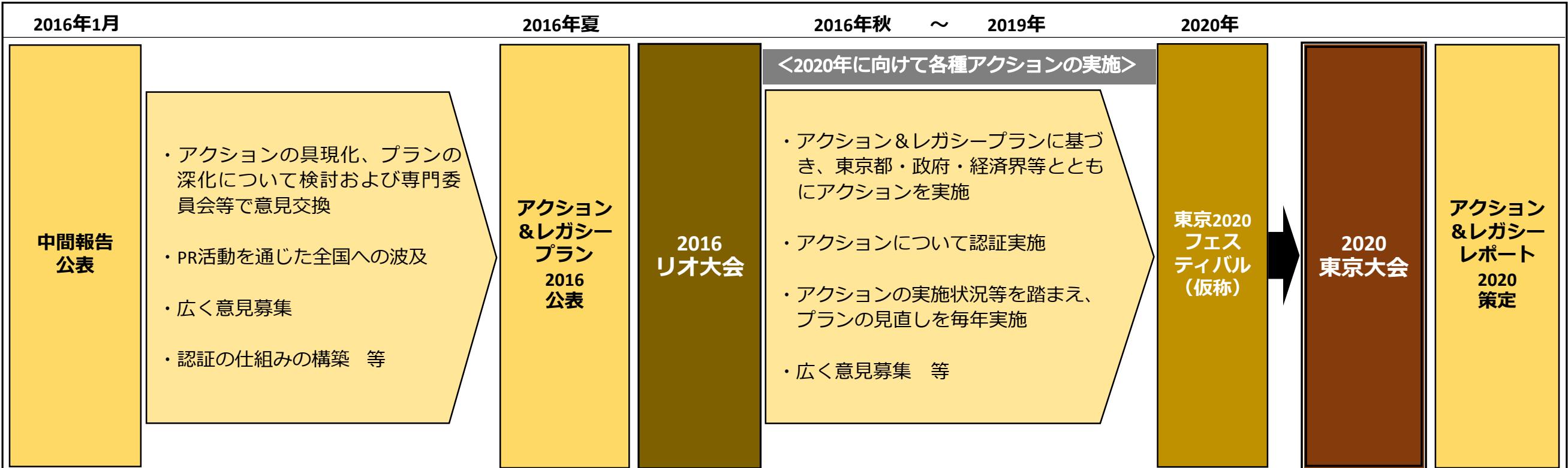
(2) 『パラリンピック』

- ▶ 高齢化先進国に向けた課題解決や、共生社会の実現・確立に向けたきっかけとなりうる大会。
- ▶ 東京は世界で初めて、同一都市で2回目のパラリンピック大会が開催される都市。

(3) 『2018～2022年の間の大規模大会との連携』

- ▶ オリンピック・パラリンピック大会（2018年 平昌（韓国）・2020年 東京（日本）・2022年 北京（中国））、日本でのラグビーワールドカップ大会（2019年）、ワールドマスターズゲームズ（2021年）といった世界的な大規模スポーツ大会との連携を図る。

4. 今後のスケジュール



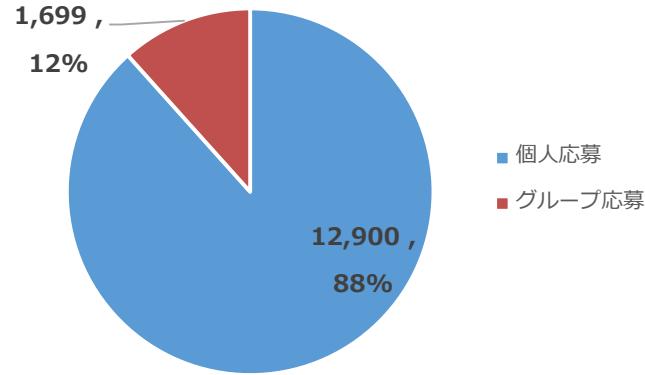
新たなエンブレムの選考に向けて

◆ エンブレム応募数

✓ **応募総数【14,599件】**

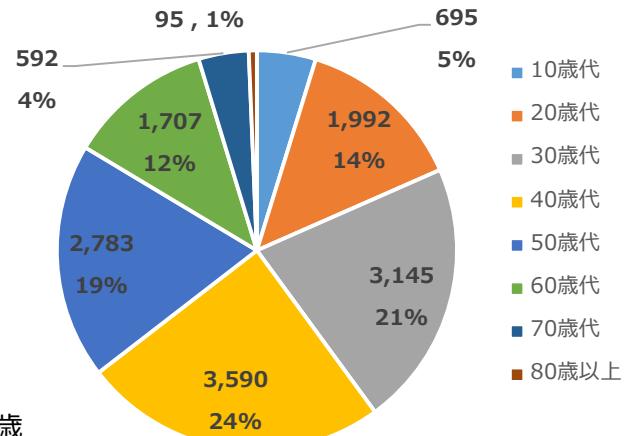
✓ **区分（個人／グループ）別
応募数**

個人応募 ; 12,900
グループ応募 ; 1,699



✓ **年代別 応募数（代表者の年齢）**

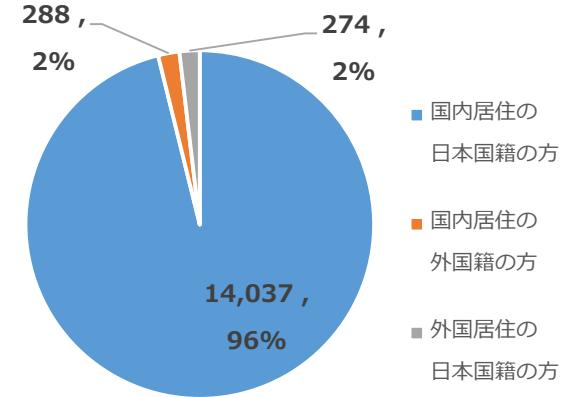
10代 ; 695
20代 ; 1,992
30代 ; 3,145
40代 ; 3,590
50代 ; 2,783
60代 ; 1,707
70代 ; 592
80代以上 ; 95



(参考)最高齢107歳
18歳未満の応募1,021名 うち小学生345名

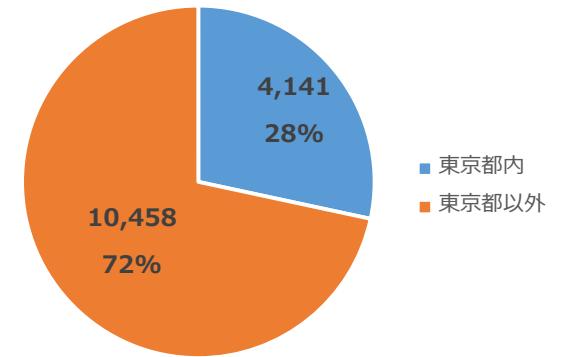
✓ **居住地・国籍別 応募数（代表者の居住地・国籍）**

日本在住の日本国籍の方 ; 14,037
日本在住の外国籍の方 ; 288
外国在住の日本国籍の方 ; 274

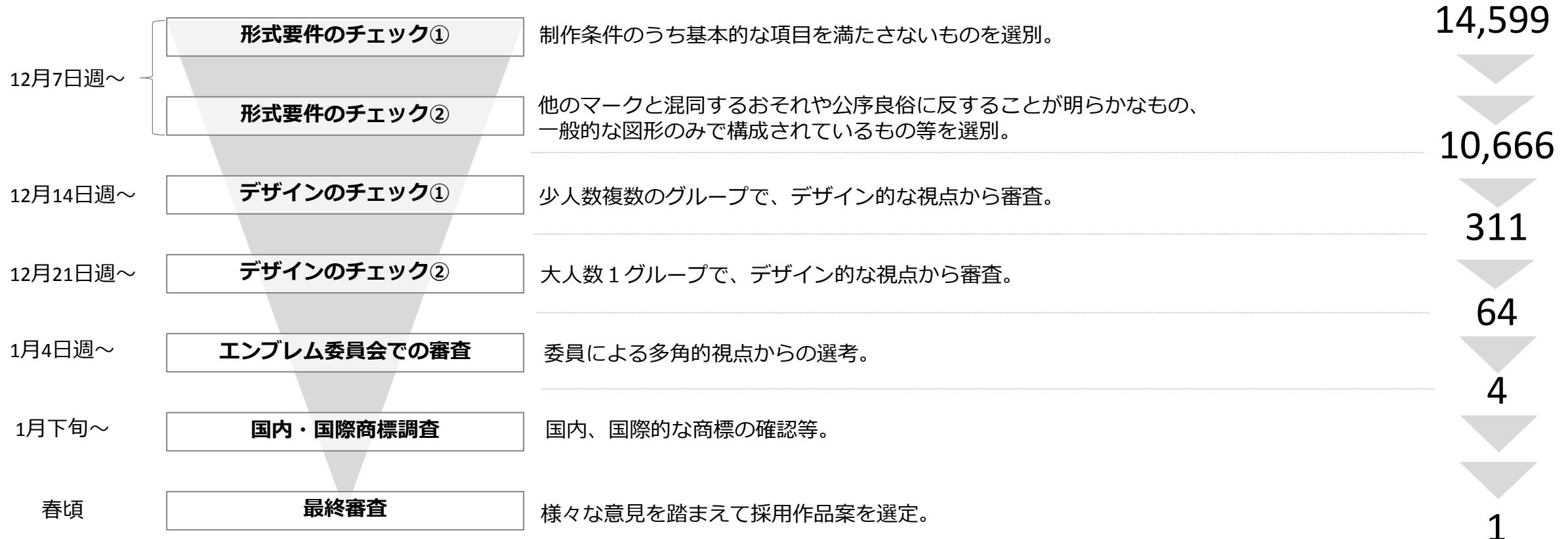


✓ **居住地別 応募数（都内・都外からの応募）**

都内からの応募 ; 4,141
都外からの応募 ; 10,458
※郵便番号が未入力の方も含む



◆ 選考の流れ



Rio 2016が開催されるリオデジャネイロにおいて、以下により、Tokyo 2020の拠点となるTokyo 2020 JAPAN HOUSE（以下、「TJH」という。）を設置し、実施運営を行う。

1 日程

オリンピック開催期間とパラリンピック開催期間の2フェーズで実施

※狭間の期間は、模様替えやメンテナンスを実施する想定

- オリンピック期間：2016/8/5～8/21
- パラリンピック期間:2016/9/7～9/18

2 実施主体

■主催

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
東京都

(公財) 日本オリンピック委員会

(公財) 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会

■出展団体 (予定)

関係各府省庁、地方自治体 (46道府県)、パートナー各社等

■助成協力 (予定)

(独法) 日本スポーツ振興センター

3 主な機能

以下3機能を果たすことが、TJHの役割

① ALL JAPANによるPR

組織委員会、東京都
各府省庁、パートナー各社、
地方自治体等によるPR

②日本選手団記者会見等の実施

- ・メダリスト記者会見
- ・日本選手団応援等

③ホスピタリティ及び事務室機能

- ・来賓のおもてなし
- ・レセプション実施
- ・各団体の本部機能

4 実施会場

最終調整中

今後のスケジュールについて

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
フェーズ		基礎フェーズ	計画立案フェーズ（リオ大会前）		計画立案フェーズ（リオ大会後）			実践準備	大会運営	解散・レガシー	
主な行事		ソチ大会 ●組織委員会設立	リオ大会 ●公益財団法人化		平昌大会			テストイベント → 東京大会	●法人清算		
大会計画・準備		IOC/IPCとの調整委員会・プロジェクトレビュー・各種ミーティング									
		大会開催基本計画	クライアント、ファンクション、会場運営に関する個別計画策定→リオ大会で学んだことを反映し、個別計画改善				実践力強化				
		関係者との連携・準備（競技、放送サービス、エネルギー、セキュリティ、パラリンピックインテグレーション、持続可能性、ブランド保護 等）									
		大会気運の醸成、大会成功に向けた国内外のエンゲージメント									
開会式、聖火リレー等		●リオ大会引継ぎ式				●聖火リレールート発表		聖火リレー	●開会式		
大会ブランド、チケット販売		●大会エンブレム発表			●大会マスコット発表			●チケット販売開始			
大会ボランティア		募集プロセス発表・採用手続き・研修									
大学・短期大学との連携		大学連携フォーラムの実施、各種連携活動の推進(オリンピック・パラリンピック教育、グローバル人材育成 等)									
NOC/NPC 事前キャンプ		候補地ガイド掲載情報募集				候補地ガイド公表・随時更新					
		(随時、各自治体にて直接交渉・合意・締結)									
被災地及び全国自治体との連携		復興支援(各事業の実施に向け復興支援連絡協議会で調整)、全国自治体と調整(教育・文化プログラム、産品紹介 等)									
会場整備		会場の配置確定、基本計画、設計、工事、既存施設の改修									
アクション & レガシープラン	スポーツ・健康 街づくり・持続可能性 文化・教育 経済・テクノロジー 復興・オールジャパン ・世界への発信	アクション&レガシープラン策定			各年度ごとにプラン更新 各種アクションの実施						
										レガシーレポート	
		オリンピック・パラリンピック大会運営								公式報告(報告書・映像)	大会後もレガシーを継承

※上記は（平成27年作成）東京2020大会開催基本計画に基づくスケジュールとなります。